

古文助動詞暗記方法とその実践

千葉県立磯辺高等学校 石川光男

一 はじめに

多くの古典文法書の表紙（もしくは裏表紙）の裏側に、見開き二頁で助動詞活用表が印刷されている。これを見ただけで、生徒はうんざりする。「こんなの覚えられない。無理無理！絶対無理！」これは正常な感覚と思われる。しかし、「全助動詞を分類し、一つずつステップを踏んでいけば容易に暗記できる」としたら、どうだろうか。

私が嘗て勤務した私立高校（千葉・稲毛区）の三年生対象の夏期講座で、私が考案した助動詞暗記方法を使って覚えさせたところ、四日目の講座が始まる前に受講生の一生徒が教卓まで来て、「先生、できました。」と言って、完成した活用表一覧を見せてくれた。三日間で助動詞活用表を覚えたのである。最短である。宿題に出したわけでもないのに、その生徒は完成させたのである。その生徒にとつて私の講座は「渡りに船」だったのかも知れない。覚えられず悩んだことがあったと推測できた。用言に学習・理解があり、生徒に覚える意欲がある場合、私

の暗記方法では多くとも五日間で覚えることができる。

また後述してあるが、特進（特別進学）ではない普通クラスの授業で、助動詞を覚えさせたところ、最終的には二クラスの計78名中、56名が一問も間違えず満点を取った。正解率72%弱であった。その暗記方法を公開したいと思う。

二 全助動詞を暗記させるまでの準備

―ラ変活用と形容詞活用の暗記―

四月、新学期を迎え新入生は「国語総合」の教科書を開く。古典文法では、動詞の活用形から入っていく。「読む」「咲く」は四段で、「得」はア行下二段などと、初歩から入っていく。この時、助動詞を後々教えることを考慮して、ラ変の活用表と形容詞の活用表は必ず暗記させた。授業時に私が教壇で音頭を取り発声させた。活用形が無い場合は、「○」を書き、「マル」と発声させた。

ラ変 ら・り・り」る・れ・れ
形容詞 く・く・し・き・けれ・かれ」
から・かり・○・かる。

「ラ変動詞、ハイ、ら・り・り」る・れ・れ。次、形容詞。縦に読む。く・く・し・き・けれ・かれ」から・かり・○・かる。ハイ」とリズムを入れて一斉「合唱」をさせた。その際、タクトこそ振らなかつたが、「でアクセントを付け、一息置いて音頭を取った。時間短縮の為、毎授業開始直後に「合唱」させた。「ハイ、大きな声で」と呼びかけるので、キョトンとする生徒もいた。生徒には大きな声を出すように毎回指示した。この発声は漢文の授業開始時でも行った。

三 助動詞暗記の方法

私の暗記方法は、助動詞を①「接続」と②「活用の型」と③「意味」の三つに分け、①「接続」と②「活用の型」を先に暗記させ、その後③「意味」を暗記させていく方法である。

覚えた「接続」と「活用」の型」を活用して、「意味」は主要な助動詞を覚えさせ、残りは教材（古文）を扱っていく時に覚えさせていくのである。先ず29語の①「接続による分類」の暗記である。

(1) ①「接続による分類」

「接続による分類」によって、助動詞の「基本形」29語を暗記させた。これを後々の為に、10秒〜15秒以内で発声できるように訓練させた。

未然形	る・らる・す・さす・しむ」ず・む・むず・じ」まほし・まし。
連用形	き・けり・つ・ぬ・たり・たし・けむ。
終止形	べし・まじ・らむ・らし・めり・なり。
連体形	なり・たり・ごとし・ごとくなり
サ未・四已	り

古文授業時の毎時間、

「では未然形に接続する助動詞、ハイ、る・らる・す・さす」しむ・す・む・むず・じ」まほし・まし。次、連用形 き・けり・つ・ぬ…」

と声を出して指導した。その際「のある太字の語（しむ・じ）は一旦止め、アクセントを付けるようにした。リズムが不思議にも出てきてより早く覚えられた。

この29語が暗記できないと次に進められないことを伝え、翌日までに暗記してくるよう、指示した。家庭学習が全く習慣化していない生徒でも数日で29語を暗記でき、15秒以内で発声できるようになった。またこの小テストを数日後実施した。ほぼ全員が満点を取った。

(2) ②「活用」の型による分類」

①「接続による分類」で29語を覚えさせた後、活用形（未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形）を一つずつ暗記させていった。その為には②「活用」の型による分類」を活用し、「特殊型」から順次覚えさせていった。

(a) 「特殊型」の助動詞（5語）

全29語の内、他の活用形からの応用が利かない、「特殊型」（5語）は、絶対暗記の語として問答無用に覚えさせた。「まし・き・ず・じ・らし」の5語である。活用形が無い場合は、「○」を書き、「マル」と発声させた。

まし	まし	まし	かし	○
き	せ	○	き	し
ず	ず	ず	ぬ	ね
じ	ざ	ら	ざ	ざ
らし	○	○	じ	じ
	○	○	らし	らし

前と同様、私が音頭を取り授業開始時に発声させた。

「それでは『まし』から行きます。ハイ、まし・ましかし・○」まし・まし・ましかし。次、せ・○・き・し・しかし…」

と繰り返し発声させた。これを少なくとも3回繰り返し発声させた。尚、「のある太字の語（まし・○・ざれ）」で一旦切り、調子を整えさせると発声しやすくなった。

(b) 「暗記すべき助動詞」（11語）

残りの24語の内、次の11語は重要な「暗記すべき助動詞」として授業開始時「合唱」させた。この場合も活用形が無い場合は、「○」を書き、「マル」と発声させた。

る	れ	れ	る	る	れ	れよ
★らる	られ	られ	らる	らる	らる	られ
	られよ。					
す	せ	せ	す	する	すれ	せよ
★さす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ。
しむ	しめ	しめ	しむ	しむ	しむ	しむよ。
む	(ま)	○	む	む	む	むめ
★らむ	○	○	らむ	らむ	らむ	らめ
★けむ	○	○	けむ	けむ	けむ	けめ
むず	○	○	むず	むず	むず	むずれ

つ て・て・つ つる・つれ・てよ
ぬ な・に・ぬ ぬる・ぬれ・ね

これも同じである。

「最初は『る』です。ハイ、れ・れ・る」
「る・るれ・れよ。次、『す』。せ・せ・す」
「する・すれ・せよ……」

と私が音頭を取り「合唱」させた。」のある太字の語(る・す・しむ・むず・つ・ぬ)は一旦止め、リズムを出すようにした。ここまで来ると生徒は要領が判ったらしく、「合唱」どころではなくなってきた。大声で発声してきた。隣のクラスに迷惑がからないう心配であった。しかし、声を出せば出す程、頭脳への定着は確実となり、忘れないのである。ここでも少なくとも3回繰り返した。但し、★印の「らる」「さす」「らむ」「けむ」は、それぞれその右の助動詞からの応用が利くので発声は省略した。「しむ」は漢文でも使うので、「しめ・しめ・しむ」・しむる・しむれ・しめよ」とこの際、覚えさせた。「合唱」させたのは、「る・す・しむ・む・むず・つ・ぬ」の6語である。

(c)「ラ変型・形容詞型」助動詞(13語)

残りの13語は規則性を説明して覚えさせ、生徒への一斉「合唱」はさせなかった。29語の助動詞で、「りり」とあれば全て「ラ変型」であり、「し(じ)」とあれば全て「形容詞型」で

ある。このことを強調し確認させた。次の13語である。

「ラ変型」助動詞

り・けり・たり(完了)・たり(断定)・めり・なり(伝聞推定)・なり(断定)・ごとくなり

「形容詞型」助動詞

まほし・たし・べし・まじ・ごとし

この時、①「ラ変型」の「なり(断定)」「たり(断定)」「ごとくなり」の連用形は二つあること、②「形容詞型」の多くは二列の活用形があり、命令形が無いことなどを認識させた。この13語は規則性さえ理解してしまえば容易に暗記できる。但し、頻繁に問題として出題される断定「なり」の連用形「に」は、絶対に暗記しなさいと指示した。高一の二期以降の助動詞の問題は、活用表作成の設問は少なくなり、空欄補充か傍線部の活用形・活用の種類を問う問題が多くなる。そして何よりも、助動詞を学ぶ目的は、古文を間違いないく訳し、解釈する力をつけることにある。助動詞を暗記することが終着点ではない。ここがずれてくると何の為の文法か判らなくなる。

四 助動詞暗記テスト

この段階でテストを行った。模試・考査で活

用する①「接続による分類」の暗記テストである。全員にどうしても暗記してもらおうテストなので、事前にテスト用紙(空欄補充の助動詞一覧表)を配付し覚えてくるように指示した。その用紙の裏には②「活用の型による分類」を印刷した。

第一回の日組のテスト当日、開始前に教壇真近の一人の男子生徒・S君が、

「先生わかんねーよ。難しいよー」と訴えてきた。訊いてみると、「ラ変型」と「形容詞型」の助動詞であった。そこで2〜3分の時間をかけ、規則性を説明した。真剣な顔で黙って聞いていたS君は、号令後に実施したテストで満点を取った。S君にとつて個々の部分がバラバラになり、混乱していたのだと思う。私が道筋(規則性)を説明することにより、その混乱が解消したため、素地はできていたS君は満点が取れたのだと思う。まさに「勉強の訓練の底に一つかみの砂金」(太宰治『正義と微笑』)が残っていたのである。自分なりに混乱・錯綜した後の暗記は完璧である。二回目助動詞テストもS君は満点であった。もう忘れな

いだろう、一生。そして古文も面白くなるだろう。「学問を、生活に無理に役に立てようとあせっては(同)いけないと思う。「日常生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させる」(同)と思われる。このテストの満点者は、次の通りであった。

	第一回	第二回
G組 (39名)	15名	31名
H組 (39名)	8名	25名

この二クラスは所謂「特別進学」のクラスではない。普通のクラスである。二回目の満点者はG組で31名(内、女子19名は全員満点)、H組では25名、計56名であった。合計72%弱の満点者数だった。しかし、私にはこの数値は不満であった。少なくとも各クラス35名以上(90%以上)の満点者が出ると予想していたからだ。

満点を取れなかった生徒に後日、その理由を訊いてみた。ある生徒は「合唱」を怠っていた、もしくは小さい声でしか「合唱」をしなかったとのことであった。声を出すことは自分の脳への定着(記憶)に直結すると説明していたが、残念であった。他の生徒は「先生わかんねーよ」と言ったS君と同じであった。規則性のあるラ変型と形容詞型の助動詞が書けなかったとのことであった。ラ変型と形容詞型の助動詞は私が音頭をとって、生徒に「合唱」させていなかった。ラ変と形容詞の活用形は知っていて書けるが、どのように助動詞へ応用・適用してあるかが判らなかつたとのことであった。規則性を板書して丁寧に説明したつもりであったが、理解できなかつたと思われる。反省である。しかも教科書には出てきていない、未学習の助動詞を扱っていたので無理もないと思つた。改め

てS君が理解したように、順序立てて丁寧に説明しなければならぬと思つた。それと共に、残つた③「意味」を次学期以降に教えていかなければならぬと思つた。しかし道のりはそう遠くない。登つてきた夏山の道が険しかった分だけ、山頂の「きれいな青ぞらとすきとほつた風」(宮澤賢治「眼にて云ふ」)が、生徒には垣間見えてきたのではないか。

五 おわりに

古典文法の要は助動詞と敬語と思つている。敬語は古文を読みながら機会があればまとめて教えることができる。その要点をつかみさえすれば、そう難しいものではない。

しかし、助動詞はそうはいかない。冒頭にも書いたように、文法書の表紙の見返し等にある助動詞一覧(29語)を覚えなさいと生徒に言つても、言われた生徒はどうやって、どこから覚えてらいいのか判らない筈である。

拙論は助動詞を暗記するには順序があり、規則性があることを理解すれば、あきらめかけていた生徒、覚えようという意欲がある生徒は覚えることができるのではないかと思ひ考案した。暗記することは難しくないとすることが判れば、古文の解釈もできるようになり、面白くなるのではないか。

補足:

①拙論は数年前、私が「YouTube」に立ち上げた「古文助動詞暗記CD」(交通標識・ニューヨーク市街を俯瞰した写真)の内容を、大幅に縮小し、コンパクト・実践用に書き直したものです。「YouTube」の「古文助動詞暗記CD」の内容は全助動詞の解説と、助動詞をリズムを付けて覚えやすく入力してあります。「古文助動詞暗記CD」にある拙論の該当部分をお聞き頂けたなら、生徒へは教えやすいと思われます。どうぞご試聴ください【CDには若干、下ネタも入っています。ご了承ください】。

「古文助動詞暗記CD」

<https://www.youtube.com/watch?v=NbaATWDRzA>

②尚、拙論の「三 助動詞暗記の方法」に記載してある、生徒に配布した用紙(二太郎ファイル)が必要なのは、石川まで空メールをお送り下さい。返信のメールに添付してお送りします。その際、他のメールと区別する為、空メールは「石川古文助動詞暗記方法」と明記してお送り下さい。

石川メールアドレス: tcu49202@yahoo.co.jp